



地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No. 29 (2022年10月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)

089-947-1165 (後方連携)

FAX 089-987-6271

清秋の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 地域連携室便り No. 29 10月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしくお願いいたします。

今回の内容 🍁

- ① 初めまして、働き方改革推進本部です 玉木みずね
- ② IBDセンター紹介 北畑翔吾
- ③ 診療科紹介 眼科 山口昌彦
- ④ 第118回医療連携懇話会『脊椎脊髄センター開設にあたって』 飯本誠治
- ⑤ コラム 院長のひとりごと 菅政治
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

初めまして、働き方改革推進本部です

副院長 玉木 みずね

この4月から当院に「働き方改革推進本部」が設置されました。

これまで日本の医療は医師の献身的な長時間労働によって支えられてきました。しかし、それは医師の健康にとって悪い上に、医療安全上大きなリスクになります。

これに対して2024年4月から法律で、医師の時間外労働が年間960時間まで（1か月換算で80時間：いわゆる「過労死ライン」）に規制されます。働き方改革推進本部は、その達成に向けて調査・立案し、提言を行います。

その一環として、既に「複数主治医制」と「診療時間内の病状説明」に取り組んでいます。併せて、病状の落ち着いた患者さんに地域にかかりつけ医を持っていただくことをより一層推進しています。

働き方改革を進めながら、当院の使命である高度急性期医療に注力するためには地域の医療機関の皆さまのご協力がぜひ必要なのです。

質の高い持続可能な医療を提供するためのこれらの取り組みに、何卒ご理解とお力添えをお願い申し上げます。



② IBDセンター紹介

IBDセンター長・消化器内科 医長 北畑 翔吾

「この子に初めて高校生らしい生活をさせてあげることができました」

潰瘍性大腸炎になった高校生のお母さんからいただいた嬉しい一言です。潰瘍性大腸炎とクローン病に代表される炎症性腸疾患（IBD）はコントロールが難しく、日常生活に大きな影響を与えます。若くして発症した場合には学生生活の中で大切な行事や部活動を諦めてしまったり、その後の社会活動に消極的になってしまったりする患者さんもいます。治療は多岐にわたるため、患者さんそれぞれに合った医療が必要とされます。

この難治性疾患に対応するため、当院においてもIBDセンターが2022年4月に設立されました。当センターのミッションは専門性の高い診療を患者さんに提供し全人的なサポートを行うことであり、IBDを専門とする医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などが密接に連携し、IBD患者さんへのチーム医療を行っています。IBD診療において正確な病態評価が重要であり、当院では大腸内視鏡や小腸内視鏡、ガストロCT、小腸造影、カプセル内視鏡検査に加えて体への負担の少ない大腸CTなども行なっております。

近年、優れた治療薬が開発され、IBDに使用できる生物学的製剤の選択肢も増えました。しかしそれはどのIBD患者さんにどの薬剤を選択すべきか判断しないといけないことを意味しております。また薬剤だけでなく栄養指導や血球除去療法など適切な患者さんに適切な時期での包括的な医療の提供が必要とされます。当院では得られた知見を患者さんへフィードバックするため、愛媛県下で愛媛大学医学部を含め関連病院での多施設共同研究を行なっております。治験についても積極的に取り組んでいるため、既存の治療ではコントロールが困難な患者さんなどにも適した薬剤の選択肢を提供できる場合があります。IBDが疑われるものの確定診断に苦慮している症例や症状のコントロールに難渋している症例がありましたらいつでもご紹介ください。患者さんの環境に合わせた最適な診療体制で対応させていただきます。

またIBDセンターとしての重要な取り組みとして、患者さんへの情報提供があります。しかし人をたくさん集めて行う通常の患者会はコロナ禍において開催が困難となっております。そのため、情報提供を目的として、疾患や薬剤、各治療の詳細について多職種による解説動画をオンラインで提供することを準備しております。QRコードなどを用いることで、気軽に動画へアクセスすることを可能としており、外来患者さんや入院患者さんに情報提供を行うことで検査や治療内容、保険制度についての理解を深めていただき、医療従事者の説明負担を軽減するとともに患者さん自らが治療選択に参加してもらうことでShared Decision Making（意思決定の共有）を実践します。当院で日々の診療に用いているIBD臨床スコアを評価できる問診票（スコアリングシート）や解説動画の提供も可能となりますので、患者さんのご紹介以外にもお気軽にご相談ください。

③ 診療科紹介 眼科

眼科 主任部長 山口 昌彦

この紹介記事を書いている2022年9月下旬、新型コロナウイルス感染症の第7波はようやく落ち着きつつあり、当院も入院制限が解除されました。この2年半あまり、白内障を中心とした不要不急患者の入院制限のため手術件数は大幅に減りましたが、日頃から地域連携の先生方が支えてくださっているおかげで、波はあるものの、何とか日常臨床をつつがなく行うことが出来ました。この場をお借りして、改めて心から感謝いたします。

当科で主に対応している疾患は、白内障、緑内障、網膜硝子体、角膜・結膜、斜視弱視、未熟児網膜症です。

白内障手術に関しては、全医師が対応可能です。近頃の若手眼科医の手術技能習得能力には目を見張るものがあります。これには、白内障手術機器の進歩も大いに貢献していますが、術後の仕上がりには経験値ほどの差はありませんので、担当医宛てでどんどん紹介していただければ、こちらで日程や術者を調整してもらいながら対応させていただきます。

網膜硝子体疾患は常勤の大熊医師、非常勤の吉岡医師が担当してくれています。眼科疾患のなかでも、白内障や緑内障と並んで数の多い網膜硝子体疾患ですが、裂孔原性網膜剥離などの緊急手術を要する症例は、松山赤十字病院や休日診療している南松山病院、そしてマンパワーがある愛媛大学医学部と連携を取りながら、それぞれの施設に過度な負担がかからないような形で運営しています。また、加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫などに対する抗VEGF薬硝子体内注射を必要とする症例も多いですが、特殊な症例でない限り、担当医宛てでご紹介いただければ幸いです。

緑内障は常勤の城戸医師が担当してくれています。ステントやチューブシャントを使用した低侵襲で安全な緑内障手術が開発され、ひと昔前に比べて、緑内障を手術でコントロールする機会は多くなってきました。小児緑内障や成人の難治性緑内障に関しては愛媛大学医学部の緑内障専門外来へ紹介しますが、保存的治療で眼圧コントロールが困難な症例については、ご紹介いただければと思います。

角膜・結膜疾患は山口が担当しています。手術加療が必要な翼状片（羊膜移植術が必要な再発例を含む）、結膜弛緩症、難治性ドライアイなどは、ご紹介いただければ対応させていただきます。一方、角膜移植症例や難治性角膜感染症は愛媛大学医学部の角膜専門外来へ紹介しています。最近、南松山病院眼科にIPL（Intense pulse light）というマイボーム腺疾患に効果のある光治療装置が導入されました。マイボーム腺機能不全などのドライアイ関連疾患の診療を行っていますが、このIPLを活用することにより、一歩踏み込んだドライアイ治療を行うことが可能です。IPL治療は自由診療になりますが、適応がある場合は、南松山病院に紹介して連携しながら治療を進めています。

斜視弱視は月1回、愛媛大学医学部から奥嶋医師が来て担当してくれています。未熟児網膜症は当院にNICUがありますので、交代で週4回の眼底観察を行い、治療が必要な場合は抗VEGF薬（ルセンチス®）硝子体内注射を第一選択とした治療を行っています。再治療ではレーザー治療を選択することが多いですが、病期が進行して網膜剥離に至った場合は、大阪の近畿大学病院眼科へドクターヘリで患児を移送して手術加療していただいています。

以上、愛媛県立中央病院眼科の紹介をさせていただきました。また新型コロナウイルス感染症の波が襲って来て、入院制限等でご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、今後ともご指導のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
外来	山口 	大熊 	河内	山口	大熊
	河内 	城戸 	森 	城戸	森
		奥嶋 [※] 		吉岡 	
未熟児	○	○		○	○
手術	AM/PM		AM/PM	AM	AM/PM

※第4火曜日のみ 火曜日月1回県立南宇和病院へ1人派遣

【専門外来】

白内障：全員対応

網膜硝子体：大熊真一(火/金), 吉岡恵理子(木AM)

緑内障：城戸龍樹(火/木)

角結膜・ドライアイ：山口昌彦(月/木)

ロービジョン：山口昌彦(第2/4木PM予約制)

斜視弱視：奥嶋奈美 (第4火PM予約制)

未熟児網膜症：全員対応

④第118回医療連携懇話会『脊椎脊髄センター開設にあたって』

整形外科 部長 飯本 誠治

今回2022年6月から脊椎脊髄センターが発足し、まだ地域に浸透していない段階のためこのテーマで話をしてもらいました。脊椎脊髄センターは私が当院に赴任した2014年から考えていたもので、一時期当科の人数不足の際に岩田先生に脊椎手術を手伝っていただくようになり、徐々に形になったものでようやく今年度の発足になっています。

第1題は脊椎脊髄センター長・脳神経外科 主任部長の岩田 真治先生に『脳神経外科における脊椎脊髄手術』という演題で話していただきました。脊椎疾患が多岐にわたる中で脳神経外科と整形外科がそれぞれ診療にあたっており、それぞれに異なった専門医制度が存在していることや他の大学や病院でも脊椎センターを開設している経緯を話してもらいました。実際の症例も動画で示していただきました。センター化することで他院からの紹介が受けやすくなり症例が増えることや各々の科の利点を生かした治療が可能になるなどのメリットを上げられました。私自身としては、さらに今後はスタッフも増えて、マンパワーが必要な手術も当院で行っていただけることを望んでおります。

第2題はリハビリテーション部 理学療法士 藤田 典道さんから『脊椎脊髄センターとリハビリテーション』という演題で発表してもらいました。脊髄損傷の発生件数や当院への搬送数が増加していることを示していただき、当院では初期治療段階からリハビリテーション部が介入して、麻痺の程度や呼吸状態を把握して患者さんのリハビリ内容を検討し、予後を少しでも改善しようと努力されています。脊椎脊髄センターと救急科、リハビリテーション部が協力し合って対応できる点は当院の強みになると思います。

第3題は整形外科の山岡 慎大朗先生に『全内視鏡手術(FESS)の取り組み—導入4年目を迎えて—』を講演してもらいました。2019年に当院でFESSを導入して順調に症例数を増やしていき、去年は100例を超えてさらに術式も洗練されていました。内視鏡手術のメリットやアプローチ法の違いなども丁寧に説明してもらいました。実際の症例も提示していただき、どのような病態に対して適応があるのかをわかりやすく解説してもらいました。従来はFESSで行うことは困難だった狭窄症なども両側からアプローチして椎間関節をできるだけ温存して除圧を行うなど少しずつ進化している術式も提示してもらいました。FESSのアプローチで固定術も併用するなどさらなる技術の発展も期待できる方法だと思われます。

第4題は臨床工学部 臨床工学技士 稲荷 慎太郎さんから『脊椎脊髄手術における臨床工学技士の関わり方』という発表をしていただきました。臨床工学技士が携わる仕事の中で脊椎脊髄センターにかかわる術中神経モニタリングを基本から道具の説明までわかりやすく提示してもらいました。実際にどのような場面で神経モニタリングを用いて異常を検知できるか、波形の異常を示しながら説明してもらいました。モニタリングを依頼する件数も近年急激に増加しており、脊椎脊髄手術を行う上で欠かせない手技となっているため今後も連携してさらに安全な手術を目指していければいいと考えています。

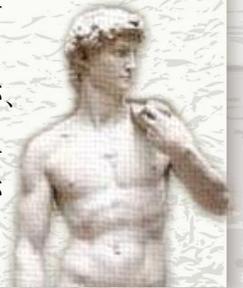
4つの異なる部署からそれぞれ発表していただき、まさにチームとして治療に取り組んでいくことが大切なのだとわかる講演になったと思います。今後、周辺医療機関への協力も得ていながらセンターとしての活動を発展させていきたいと思っています。

⑤「院長のひとりごと」 院長 菅 政治

おちんちんとダビデ像

こどもさんの包茎についてお母さんから相談をうけることがあります。男の子は生まれたときはみな包茎で、亀頭をつつむ皮膚（包皮）が徐々に剥がれ、小学校位にはほぼ亀頭が露出するようになります。多くは無治療でいいですが、包皮の先端が非常に狭い場合などは軟膏を用いて亀頭の露出を促進する指導をすることもあります。日本の成人男性の多くは亀頭が容易に出ますが普段は包皮がおおう仮性包茎で治療の必要はありません。

ユダヤ教、イスラム教など宗教上の儀式として割礼(包茎手術)を行う国もありますが、痛みや感覚豊富な皮膚を切除するデメリットもあり、日本では包茎手術は限られた症例に対して行います。職業柄、西欧の彫刻などでもおちんちんを見てしまいますが包茎は気にしてないようです。あまり気にしないのが一番かな。



⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきたいと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



<件名> メール登録（医療機関名） <本文> ・医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で...

医療連携懇話会の
動画配信が
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



お問い合わせ

愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>濱田・三好



TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回第120回医療連携懇話会のお知らせ

令和4年 11月9日(水) 19:00~20:00

- テーマ ~知っておきたいIBD診療~
- 座長 消化器内科 主任部長 平岡 淳
- 演題
 - ・ IBD診療 基本的治療の最適化
消化器病センター長 二宮 朋之
 - ・ IBDに対する外科の役割
消化器外科 部長 古手川 洋志
 - ・ 顆粒球吸着療法について
臨床工学部 臨床工学技士 村上 莉沙

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから [Click!](#)



媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

<現在閲覧できる項目>

- ・ 処方・注射・検体検査・病名
- ・ 画像（放射線、エコー、生理検査）
- ・ 循環器動画・放射線画像診断レポート

閲覧項目

随時追加予定

(2021年11月1日以降の情報) (2022年3月1日以降の情報)

<リンク先>

愛媛県立中央病院ホームページ

詳しくはコチラから [Click!](#)



地域連携室便り

次回11月号(No.30)は
11月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！